

新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。
謹白



項目名

【胆道癌を対象とする癌遺伝子変異解析】

- 胆道癌オンコメインマルチCDx-FFPE (依頼コード No.77492)
- 凍結組織 (依頼コード No.77493)

受託開始日 2026年6月1日(月) ご依頼分より

このたび、遺伝子変異解析検査「オンコメインDx Target Test マルチCDx システム」が、新たに胆道癌を対象としたIDH1 遺伝子変異検出のためのコンパニオン診断システムとして保険適用されました。本検査を用いてIDH1 遺伝子変異の有無を検出することにより、分子標的薬「イボシデニブ(製品名: ティブソボ)」の投与適応判定の補助となる情報を提供いたします。

検出対象遺伝子変異	癌腫	関連する医薬品
IDH1 遺伝子変異	胆道癌	イボシデニブ

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
総合研究所 〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1
☎ 03(6629)7386 FAX 049(232)3132

検査項目検索用
アプリ B-Book



Google play



Available on the
App Store



電子カルテはビー・エム・エル



受託要領

依頼コードNo.	77492		77493
検査項目名	胆道癌オンコメインマルチCDx-FFPE		胆道癌オンコメインマルチCDx-凍結組織
内 容	14327：胆道癌オンコメインマルチCDx-FFPE/核酸抽出 14328：胆道癌オンコメインマルチCDx-FFPE/変異解析		14329：胆道癌オンコメインマルチCDx-凍結組織/核酸抽出 14330：胆道癌オンコメインマルチCDx-凍結組織/変異解析
検体必要量	未染色スライド 5～10枚	パラフィン切片5μm厚 5～10枚	組織 100mg
容 器	CASE	B-20	B-20
検体の保存方法	室温		凍結
所要日数	6～11		
検査方法	次世代シーケンス(NGS)法		
基準値	なし		
単 位	なし		
報告範囲 (報告形式)	【別紙報告】 対象となる遺伝子変異について「陰性」あるいは「陽性」、併せて測定機から出力されるテストレポートもご報告します。		
検査実施料/判断料	5000点/100点 (遺伝子関連・染色体検査) 【D004-2】悪性腫瘍組織検査1(口)処理が複雑なもの		

出検時の注意事項

- 本検査の実施にあたり、提出される検査材料には腫瘍細胞が30%以上含まれていることをご確認の上、ご提出ください。腫瘍細胞含有率が30%に満たない場合はマクロダイセクションの実施が必要となります。その際は、全ての未染スライドの裏面に油性マジックペンにて腫瘍部位を囲うようにマーキングをお願いいたします。
また、標本のサイズが小さい(生検組織など)検体は、予め多めに検体を出検していただくことで(20枚前後)検査に必要な核酸収量を確保できる可能性が上がりますので、ご検討いただくようお願いいたします。
- ホルマリン固定検体では、固定条件(ホルマリンの種類、固定時間)によって核酸の断片化が生じ、解析不能となる可能性があります。検体の取扱いに関しましては各種ガイドラインなどを参照してください。
<推奨される固定条件>
 - ・ホルマリン：10%中性緩衝ホルマリン
 - ・固定時間：手術検体 18～36時間、生検検体：4～24時間
- 本検査の実施に関しては検査の目的、結果の解釈や取り扱いについて、患者への十分な説明の上、検査実施の同意を得られたことを前提にご依頼いただくようお願いいたします。
- 本検査は核酸抽出から解析までを一連の検査として実施するため、核酸の濃度不足などで検査実施が困難な場合や解析不能となった場合でも所定の検査費用が発生することを予めご了承ください。
- 妨害物質の影響として、ケノデオキシコール酸:非抱合胆汁酸(30μmol/L、CLSI EP7-A2における推奨量)は胆道癌検体において、DNA変異が検出感度(LOD)付近のアレル頻度で存在する場合、推奨量で判定結果に影響を及ぼす可能性があります。

【検査方法の参考文献】

Meenakshi M. et al.: PLoS One 12(8), e 0181968, 2017.